

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090400211		
法人名	有限会社 ワンダー		
事業所名	グループホーム おむすび苑		
所在地	〒802-0032 福岡県北九州市小倉北区赤坂1丁目7番18号 Tel.093-533-0633		
自己評価作成日	令和05年02月10日	評価結果確定日	令和05年04月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel.093-582-0294		
訪問調査日	令和05年03月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自分の親だったら、自分だったら」どう支援やケアをされたいか日々、意識しながら携わっています。ひとりひとりの人生パズルの中に「うれしい、たのしい、あたたかい」といったピースをおむすび苑がたくさん埋めれるように支援していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

認知症高齢者が住み慣れた地域の中で、最期まで安心して暮らせる場所として9年前に開設した、小規模多機能ホーム併設で定員18名のグループホームである。コロナ禍以前は、「おむすびサロン」「おむすび公園」を地域に開放し、少しずつ地域との関係を積み重ねていたが、現在は自粛している。そんな中でも、おむすび公園の畑で芋掘りや餅つき等、少しでも利用者に楽しんでもらおうと、管理者を中心に職員の努力が続いている。提携医との密な連携に加え、同一建物内に訪問看護ステーションが開設して医療面での強化が図られ、看取りも行っている。事務職、介護職員、看護職員が、それぞれの持てる力を発揮しながら、利用者や家族の笑顔に繋がる事業所を目指し、「ここを選んで良かった」と、家族の信頼も厚い、グループホーム「おむすび苑」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議等で理念の共有ができています	法人理念や基本方針、「おむすび苑8ヶ条」を各フロアの見やすい場所に掲示し、毎週月曜日の朝礼時に唱和して、職員一人ひとりが理念の意義や目的を理解している。職員は、利用者の尊厳を大切に、その人らしい暮らしの支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中、できていないことがあるが、屋外での清掃活動や月1回の廃品回収での交流ができています	利用者と職員は町内会の一員として、地域の行事や活動に出来るだけ参加し、おむすび公園で同一法人保育園の子どもたちと焼き芋やバーベキューを楽しむ等、少しずつ交流を広げていたが、コロナ禍の中で現在は自粛している。回覧板を回したり受け取ったり、毎週木曜日のゴミステーションの清掃に参加する等、今できることに取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が訪ねて頃れたときに、説明ができています		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の中、紙面上での開催になっている	運営推進会議は、併設小規模多機能ホームと合同で、2ヶ月毎に開催し、ホーム運営や取り組み、行事や研修計画、事故等について報告してきたが、現在は新型コロナウイルス感染症対策のため、書面で報告している。参加委員から出された意見や要望は検討し、介護サービスの向上に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	尋ねごとは直ぐに、介護保険課などに連絡しアドバース意をもらっている	運営推進会議開催時に(現在は書面で報告)、地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状を説明している。管理者は、行政窓口にも、空き状況や事故等を報告し、疑問点や困難事例等の相談を行い、連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設長会議での伝達や委員会の内容を報告している。職員への周知を徹底している	身体拘束廃止委員会を中心に、虐待や身体拘束について職員研修を開催して職員への周知を図り、言葉や薬の抑制も含めた身体拘束をしない介護サービスを提供している。また、日常介護の中で、で気になる点があれば、その都度、職員間でしっかりと話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	施設長会議での伝達や委員会の内容を報告している。職員への周知を徹底している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や青年後見制度マニュアルの周知を実施	外部や内部の研修を通して、管理者は権利擁護に関する制度を理解し、パンフレットや資料を用意して、職員へ周知している。必要時には、利用者や家族に、制度についての説明し、申請窓口を紹介できる体制を整えている。現在、制度を活用している利用者はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分に不安や疑問を伺いご説明したうえで理解・納得を得ている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見や要望は、運営に反映されている	職員は、ホームの暮らしの中で、利用者の意見や要望を把握し、コロナ禍の中で家族の面会も制限されているが、電話やメール、手紙で家族と密にコミュニケーションを取りながら、家族の意見や要望を聴き取り、ホームの運営や日常介護にに反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議に出席し施設長・管理者・リーダーから意見や提案を聞き、その場で問題解決している。	職員全体会議やフロア毎の会議、介護職のみ、看護職のみ、ケアマネージャーと計画作成担当者の会議等、小さなミーティングが多くあり、職員が意見を表せる機会は多い。直接管理者への相談もあり、思いを聴く中で、職員からの発信を出来るだけ反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長より、管理者・リーダー・職員の勤務等を報告を受け、職場環境・条件の整備を積極的にしている		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢や性別、今までの履歴関係なく雇用に対応している	職員の募集は、年齢や性別、資格や経験の制限はなく、働く意欲や人柄を優先している。採用後は、職員間で常に互いを思い合うことの大切さを説明し、職員間で助け合いながら、それぞれの特技や能力を活かせる職場作りに取り組んでいる。また、年1回の昇給、マイナスのない賞与の査定、有休、夏冬のリフレッシュ休暇の取得も奨励している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	事例などを上げ、教育・活動に取り組んでいる	利用者の人権を尊重する介護サービスについて、職員全体会議で話し合い、意識の統一を図っている。法人理念、基本理念、おむすび苑の理念を常に意識して、人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修はできているが、外部は徐々にしている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報を施設長会議や管理者会議の時に伝達があり、取り組みをしている		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約の時や前利用の事業所や病院のどに聞き取りを行い関係作りに努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時間をかけて、契約前後に関わらず要望や不安な事は聞き続けている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネや看護師、介護士、福祉用具など多職種間で対応に努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	過ごす中で暮らしを共にする関係を築いている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族間の絆を大切に、本人を支える関係を築いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で直接会う事は少ないですが、電話や手紙で支援している。看取りの方は、人数を制限し感染対策を行い面会をしています	笑顔で挨拶を職員間で徹底し、コロナ対策以前は、面会に訪れやすい雰囲気作りを心掛け、家族や親戚、友人、知人の面会を歓迎していたが、コロナ禍で、面会は制限している。以前は馴染みの美容院へ出かけていたが、コロナ禍の現在は、天気の良い日におむすび公園で青空美容室を実施している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人のご様子を見て、席替えを行う対応をしています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用終了後も、訪問があったりお電話などがあり支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネを中心としたミーティングを行い意向の把握に努めている	職員は、ホームの中の日常会話から、利用者の思いや意向を把握し、思いの実現に向けて支援している。意思を表すことが困難な利用者には、職員が利用者に寄り添い、表情や行動から思いを汲み取り、常に利用者主体である事を意識しながら、ホームの中で利用者が安心して暮らせるように支援している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	時計や、写真、ぬいぐるみ、ティッシュなど馴染みのあるものを傍に置かれています		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	所々に椅子などを置き、気の向くままに歩いている。いただいたる座っていただいたりしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心としたミーティングを行い、多職種からの意見や知恵を聞き、現状にあった介護計画を立てている	ケアマネージャーや計画作成担当者が、電話で家族の意見や要望、心配な事を聴き取り、カンファレンスで検討し、利用者本位の介護計画を半年毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせて、家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画をその都度作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現場の職員が中心に計画に基づき評価し、その中で気づきや工夫をし、見直しがある時はケアマネとミーティングを行っている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度柔軟な対応に取り組んでいる		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の環境で難しいが努力している		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を聞き、科に分かれての受診や相談環境がつくれている	入居時に利用者や家族の希望を尊重して主治医を決定し、馴染みのかかりつけ医の受診は家族対応でお願いしている。現在は利用者全員が、協力医療機関が主治医であり、定期的な往診と緊急時の指示を受け、看護師、介護職員が連携して、24時間安心の医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間看護師と連絡が取れる環境にある。その際、的確な指示を受け対応や受診に結びつけている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の主治医やソーシャルワーカーと連絡をとり、情報交換に努めている		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、看取り1名入居中。家族様と何度も話し合いを行い主治医にもアドバイスをを受け、チームとして支援に努めている	契約時に、重度化や終末期に向けた方針について、利用者や家族に説明し、承諾を得ている。利用者の重度化に伴い、家族と主治医、関係者で今後の方針を確認し、希望があり条件が整えば、看取りの支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	朝の朝礼時に救急対応クジ引き返答を毎日行い、事例を伝え対応を答えている(コロナ禍で一時中止)。個人での動画でのAED使用視聴や実際にAEDの使用方法を外部から指導を受けている		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍の中で地域との協力は難しいですが、訓練を定期的に行い周知している	年2回非常災害を想定した避難訓練を、併設事業所と合同で実施し、2階と3階の利用者18名を、安全に一時避難場所に誘導し、消防車の救出を待つ体制を整えている。また、「火を出さない」事を申し合わせ、毎日担当者が安全点検を行っている。災害時に備え、非常食、飲料水も備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「自分の親だったら、自分だったら」どんな風に接して欲しいかを考え、ひとりの人として尊厳を大切にしている	利用者のプライバシーを守る介護の在り方について、職員一人ひとりが尊敬の念を持って利用者に接し、プライドや羞恥心に配慮した声掛けや対応を心掛け、新人研修でしっかりと意識づけを行っている。また、利用者の個人情報や職員の守秘義務については、管理者が常に職員に説明し、情報漏洩防止の徹底を図っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の中での表情や言動で思いや希望を読み取り、職員の思い込みが内容心掛けている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日の利用者様の状況把握し、ケアや業務内容を変更している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の気に入られた洋服や持ち物が持てるよう支援しています。若いころオーダーで仕立てられたものを体形がお変わりないので来ていただいている		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	音楽をかけたり、茶碗の準備やあとかたづけと一緒にを行っています。エプロンをされうれしそうです	法人厨房から栄養バランスやカロリー計算された料理を配食し、彩り良く盛り付けし、炊飯や汁物の温めは各フロアで行なっている。食事の準備から片付けまで、利用者の能力に合わせて楽しみながら手伝ってもらっている。また、炊飯器を使って芋ケーキを作る等、おやつ作りにも取り組み、利用者の健康増進に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事時間に嚥下の変化がないかを職員間で情報を共有し、個々の状態によって対応している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシ、歯間ブラシ、舌ブラシ、口腔スポンジ、歯磨き粉、ジュエルなどをひとりひとりにあったもので対応し、3回/日行い、歯科往診にて定期的に行えている		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりにリズムをつかみ、トイレ誘導している。また、ちょっとした不快な動作などを見逃さず職員間で情報を共有し対応している	職員は、利用者一人ひとりの生活習慣や排泄パターンを把握し、タイミング良く声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄の支援に取り組んでいる。また、夜間帯は2時間毎の巡視を行い、トイレ誘導、パット交換、オムツ交換等、それぞれに応じて対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ自然排便が望ましいので、朝のヨーグルト摂取を継続しています。水分補給や体操などを取り入れながら調整し、それでも排便が難しいときは主治医に相談・指示のもと、内服や坐剤の対応をおこなっている		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は決めておらず、その方のその日の状況や「入りたい」という思いに沿い、対応している。	入浴は、利用者の希望や体調を見ながら週2回を基本としているが、便失禁があった場合などはその都度シャワー浴を行なっている。毎週木曜日の午後、介護士2名と訪問看護師1名で1階の特浴を使って、重度の利用者の入浴を行う体制が整っている。また、入浴は利用者と職員が一对一でゆっくり会話ができる大切な時間と捉え、本音を聞き取っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やホール内の行き来を自由に対応している。夜間も、「寝ようかな」の思いに添いテレビ鑑賞や軽食、談笑の対応を行っている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師指導のもと、また薬剤師に指導アドバイスを受け、内服後の変化を慎重に観察して、変化あれば主治医に上申している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族様からの差し入れを、お好きな時間に提供している。夜中でも、起きられて眠れない時も提供し、良眠されています。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中、遠方への外出は難しいですが、フロアでの行き来や、おむすび公園にお散歩に行っています。	コロナ対策以前は、天候や利用者の体調を見ながら、花見や買い物、ドライブ等に出かけ、気分転換に取り組んできた。おむすびの形をした敷地の中のおむすび公園を整備し、花や芋を植え、ベンチを置いて、外気浴を楽しむことが出来る環境を整え、利用者の生きる力を引き出している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍の中、お買い物の外出が難しく、今後はできるだけ対応していきたい。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様と、電話やテレビ電話対応を行っています。定期的に、お手紙や写真が届き楽しみにされています。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員と一緒に毎月の飾りつけを考え、できるところの過程を一緒に行っている。心地よい空間を提供できている	三角形の敷地を上手に活かした建物は、清潔で清掃が行き届き、温度や湿度、照明や音、臭い等にも配慮され、明るく、アットホームな雰囲気の共用空間である。地域交流室おむすびルームを設置し、おむすび公園を整備して、地域の方や保育園児、利用者の交流の場になっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に歩いていただいたり、ホール内に椅子を置き好きな所に座っていただき談笑をしています。ご様子をみながら、ぼんやりと外を眺められているところをそっと見守っています		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や入居中も、ご本人の使い慣れたものを持参していただいています。お孫さんの写真や家族写真、アルバムなどが飾ってあります	利用者の馴染みの仏壇やリクライニングチェア、家族の写真等、思い出のある物を持ち込んでもらい、利用者が安心して過ごせるように家族と相談しながら居室を整えている。また、利用者の状態の変化に合わせて、床ベッドに替えたり、筆筒を外したりして、安全に過ごせる環境作りに努めている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見て伝わるような表示やイラストを掲示しています		